長田中だより

令和８年４月１６日
第１号
校　長　藤田　明子

「自分の未来は明るいと感じることができる」
「橋を架ける」教育

私は校長の藤田明子と申します。この「長田中だより」を通して、生徒や学校の様子や校長としての思いを伝えたいと考えます。どうぞ、御一読をお願いいたします。

始業式・入学式で、私が大切にしていることを伝えました。抜粋ですがお伝えします。

〇校訓「友愛　創造　剛健」の継承と推進

〇橋を架ける教育

困難にぶつかってもその違いを超えて対話する。多様な人々と協働して様々な社会的変化に対応できる。

〇自分の未来は明るいと思える教育

学校生活の中で、自分の良さや可能性を実感できる。

〇一人になるときと一つになるときを往還できる。一人になる時とは、自分とはどんな人だろう、自分の良さや可能性とは何だろうと自分について考えること。一つになるとは、集団の中で自分は何ができるだろうと考えること。

〇地域とともにある学校

地域の方に愛される生徒を育成するとともに、自分や諫早市・長崎県等、未来の姿を語ることができる生徒の育成を目指す。

（諫早市教育委員会指定事業　Ｒ８本発表）

他にもあるのですが、その時々、折を見てこの学校だより等で、発信させていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

始業式代表生徒の言葉

３年生としての実感をもって　山森美紅さん

私は３年生という最高学年になった実感があまり湧いていません。ですが、明日は新１年生が入って来ます。これまで頼ってきた先輩方が卒業し、次は自分たちが引っ張っていくばんとなりました。これまで２年生の時に注意されていたように、「誰かがするだろう」という考え方だと私達は一歩も成長しません。

そのような考えから卒業するために特に３年生の１学期で頑張りたいことが２つあります。

１つ目は全員がどんなことにも一生懸命に、取り組むことです。授業などで、全体では頑張っているように見えるけど、一人ひとりで見てみると全力ではない人が数人いると注意を何度か受けていました。１学期は私達が主役となる体育祭があります。３学期の後半から体育祭に関することを団長、副団長、ダンスリーダーと放課後などに集まって考えてきました。ですが、これからは、その役職を持っている人だけではなく、全員で放課後などの時間を使い、意見を出し合うなどしていきたいです。そうすることで、全員が一生懸命に取り組めるようにしていきたいです。

２つ目は、余裕を持って行動することです。自分たちで考え余裕を持って行動することで、時間がうまれ、提出物や体育祭などの練習に全力を出せると思います。

２年生のときは、保護者に書いてもらうプリントなども期限内に集まらずに先生に迷惑をかけて

しまいました。そのため、回収する人の呼びかけをさらに徹底することも大切ですが、全員がもらった次の日には提出し、期限よりも余裕を持って行くことを心がけていきたいです。また、移動教室の時には、教室でダラダラ残っている人がいて、戸締まり当番の人に迷惑をかけてしまったり、次の授業の準備をせずに、友達とおしゃべりしたりしている人が多くいました。そのようなことがないようにこれからは、余裕を持って行動できるようにしていきたいです。
私達３年生はこの１年で大きな選択をする１年になると思います。今よりももっと気を引き締めて今回の頑張りたいことを意識して、最高学年と、受験生という自覚を持って過ごしていきます。

２年生になって　川田怜音さん

今日から２年生になり、２年生になって頑張りたいことが２つあります。

１つ目は授業態度です。１年生のときは学年全体で授業中の私語や２分前着席１分前黙読の徹底ができなかったという課題がありました。２年生になって１クラスになり、４１人が同じ教室で学びます。だからこそ、お互いに声を掛け合い、クラス全員が「１年生のお手本」になれるように頑張っていきたいです。

２つ目は委員会活動です。私は委員会の副委員長になったので、しっかり委員長をサポートし、学校全体が生活しやすい環境になるように活動したいと思います。また、学年全体で、自分から考えて行動する力をつけていきたいです。

２年生には、修学旅行や職場体験など、楽しみな行事がたくさんあります。仲間と協力して、何事にも全力で取り組み、この１年を充実した１年にするために学年全体で頑張っていきます。

おにぎり食堂

長田中学校に赴任して驚いたことがあった。「おにぎり食堂」があることは知っていたが、「おにぎり食堂」が存続しているのは、地域の皆さんと生徒のみなさんの、ボランティアで成り立っている、ということだ。

ボランティアの具体的な内容は、前日の米研ぎ、当日の配ぜんだ。

ボランティアの方がおっしゃった。

「本当は、おにぎりは家で食べたほうがいいにきまっている。でも、お腹がすく子どもに、栄養ある愛情たっぷりのおにぎりとお味噌汁を食べさせたい」と。

様々な課題はあるだろうが、まずは、ボランティアの皆さんに、心から感謝申し上げたい。



